

第2174号 2026年05月17日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023



憲法を自身の問題として、一緒に考えよう ねむろ「九条の会」 憲法記念日のつどいを開催

5月3日、ねむろ「九条の会」は憲法記念日つどいとして、映画「不思議なクニの憲法」上映会を市総合文化会館で開催し、市民ら35名が参加しました。79回目となる憲法記念日、あらためて憲法について一人ひとりが自分自身の問題として考える時間となりました。

松井久子監督のドキュメンタリー映画「不思議なクニの憲法」は、政府が国民の大きな反対運動を押し切つて強行した安保法制を可決した翌年、2016年に公開されました。

ねむろ「九条の会」共同代表の神志氏はトランプ大統領の横暴や高市政権の課題に触れながら、映画にも登場する伊藤真弁護士が3月に釧路で講演した内容を紹介。「私たちは自ら考え、自ら学び、自ら行動し、ちよつと口うるさい自立した市民・国民になろう。そのことが今こそ求められている」と開会あいさつしました。

なお、ねむろ「九条の会」は準備会を経て2006年8月12日に創立。今年で20年目を迎えます。これまで前代表の故細川憲了氏を中心に様々な活動をしており、今の危険な情勢において今後もその役割は大変重要になるものと思います。

映画は松井監督のインタビューに答え、瀬戸内寂聴氏や憲法学者の長谷部恭男教授、元外交官の孫崎享氏、弁護士伊藤真氏、自民党の船田元衆議院議員など多くの「専門家」が、日本国憲法と自民党改憲案について各自の解釈を語ります。さらに安保法制の運動に取り組んだ女性や大学生、また高校生や主婦、自衛隊員の家族など一般市民の方々も多く登場し、各人が生活に結びついた憲法のあり方について、賛成の立場も反対の立場も自分自身の言葉でインタビューに答えていました。

上映後に会場で行った意見交流では、「別海九条の会」の岡井健氏は「安保3文書は敵基地攻撃能力が記載されているが、本来は外交交渉をしつかりと行うべき」と指摘。獣医師の立場から「牛の角は自分を守るもので相手を殺すためにあるものではない。草食動物の生態から『専守防衛』の本当の姿が見えてくるのではないかと述べました。また「なかしべつ九条の会」の瀬浪秀人氏は「この国は二度と戦争はしないと誓った」と書かれた旗を持参して、「この文言が大切。日本は議会制民主主義であり、国民一人一人がしっかりと考えて議員を送りださないとけない」と語りました。会場の参加者からは憲法24条の「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立」という「両性」の文言の解釈について、単に「男と女」を指すだけでは無い、という意見なども挙げられました。

集会の最後に、ねむろ「九条の会」世話人の手塚満氏は「今の憲法の到達、どこに問題があるのか、どこが足りないのか、我々の生活の中から、それぞれの家庭や近所の人と話し合えればと思う」と閉会あいさつを述べました。

核も戦争もない世界をめざして 2026年原水爆禁止国民平和行進 根室コース



安心して平和に暮らせる社会の実現を 「第97回メーデー根室市集会」が開催

5月1日、根室地区労働組合総連合など各団体による実行委員会主催の「第97回メーデー根室市集会」がときわ台公園で開催され、労働組合員など約60名が参加して「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」というスローガンのもと団結を固めました。

実行委員会を代表して根労連の中山議長は「働く人々の声が届かない政治では、賃金も暮らしも平和も守れない。今日ここに集まった一人一人の声が重要。賃金を上げ、働く時間を短くし、平和を守り、安心して暮らせる社会を作るために、私たち自身が声を上げ、行動する。連帯し支え合い、未来を切り開く力は必ず私たちの手の中にある」とあいさつ。

集会ではメーデー宣言とあわせて「米国によるイラン攻撃に反対し、対話による平和的解決を求める特別決議」を採択。このほか恒例のプラカードコンクール表彰も行われました。

集会後に予定していた市街地のデモ行進は雨天のため急遽中止し、参加者は集会場で「団結ガンバロウ」と声をあげました。



核兵器廃絶と被爆者援護、核兵器禁止条約への日本の参加を訴え、全国から被爆地広島・長崎をめざして歩く2026年原水爆禁止国民平和行進。5月10日に根室コースの出発式が納沙布岬で行われ、子どもたちを含め労働組合や市民団体などから20人が参加しました。

今回「通し平和行進者」として札幌から参加した小川基弘さん。根室コースの出発式で納沙布岬を訪れるのは、2013年から今回で5回目です。「原爆が落とされて81年、21万人の方が亡くなったことは、けつして被爆者だけの問題では無く、人間が生きてるために原爆は決して許されぬ。被爆者は世界を動かした。核兵器禁止条約が国連で採択され、ノーベル賞を受賞した。今こそ戦争反対、核兵器完全禁止のために、一人でも多くの人にこの声が伝わるよう頑張る」と決意を述べました。

出発式のあと一行は市街地を行進して「核兵器も戦争もない世界を実現させましょう」と道行く市民らに呼びかけました。